

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年11月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105115
法人名	有限会社 鹿児島メディカル
事業所名	グループホームあらた
所在地	鹿児島市荒田1丁目51-14 (電話) 099-252-2561
自己評価作成日	令和3年10月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者の生活の質向上を大きな目標としている中で職員の知識、技術を高め介護実践につなげるため内部、外部研修に力を入れている。
- ・ケア、運営について職員間で情報共有を徹底している。
- ・毎月職員によるケア検討会を開催し介護計画に活かしている。
- ・毎食後の口腔ケアの徹底や管理栄養士による栄養ケアなど予防の視点を大切に健康管理に取り組んでいる。
- ・防災訓練に地域住民の協力を得たり地域の幼稚園生や小学生と交流する機会を設けるなど継続的な関係を築き「地域の力」を活用している。(現在は新型コロナウイルス感染予防のため控えている)
- ・運営推進会議に地域代表、交番、長寿支援安心センター、家族代表など幅広い方々の参加が得られ活発な意見交換が行われている。(現在は新型コロナウイルス感染予防のため控えている)
- ・校区の小学校で認知症サポーター養成講座を開催し事業所の専門性を地域に活かしている。(現在は新型コロナウイルス感染予防のため控えている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市荒田地区の、医療機関や小・中学校、コンビニ、薬局、ガソリンスタンド、住宅等が立ち並んでいる市街地の一角に、平成18年に開設されている。法人母体でホームの協力医療機関が道路向いにあり、日頃から密に連携を図って治療や健康管理を徹底しており、利用者や家族の安心に繋がっている。

地域密着型事業所として、開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、自治会に加入して文化祭や敬老会、バザー等の地域行事へ参加し、日頃の散歩時には挨拶や会話を交わし、施設見学や中・高校生の体験学習、ボランティア、友人知人の面会等を積極的に受け入れてきている。また、自動通報装置には民生委員や地域住民も組み入れるなど協力体制や良好な交流が出来る関係を構築しているが、新型コロナウイルスの感染予防に配慮して、現在は自粛している。地域住民から寄せられる認知症対応等の相談には専門性を生かして丁寧助言するなどの交流を継続している。

管理者及び職員は、ホームの理念やケアの目標を玄関やリビング、スタッフルーム等に掲示して周知を図り、「利用者は人生の先輩である」ことを常に意識して、尊厳や人格、想いを大切にケアに努めている。利用者及び家族からの意向や要望を、ケアの中や面会、電話、ライン等で汲み取り、ケア検討会等で協議して改善を図っており、家族との信頼関係が築かれている。日々の生活も利用者の心身の状態や生活習慣に配慮し、意向に沿って趣味などの個別の支援にも取り組むなど、利用者主体の生きがいのある暮らしとなるよう努めている。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築しており、日頃の業務の中やミーティング、ケア検討会等で意見や要望の把握に努め、個人的な事情にも配慮しながらサービスの向上や働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。日常的にケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域のつながりを大切にする意義を共有できるよう毎朝朝礼にて理念の唱和を行っていたが、新型コロナウイルス感染予防である三密回避の為現在中止している。	地域密着型サービスの意義を踏まえたホームの理念とケアの目標を、目に付きやすい玄関やリビング、スタッフルームに掲示して意義の共有を図っている。以前は唱和も行っていたがコロナ禍に配慮して現在は中止し、日々のケアの中や毎月のケア会議等で振り返りや意見交換を行って、理念に沿った支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	これまで校区の小学校行事への参加、ボランティアの方や園児、児童、中学生との交流の機会を設けていたが現在は新型コロナウイルス感染予防のため交流は行っていない。	開設以来、地域との交流を大切に取り組んでおり、地域の情報の把握に努め自治会にも加入して会合やイベント等に参加し、外出時の地域の人との会話や、家族・友人の面会、ボランティア等を積極的に受け入れるなど円滑に交流する関係が構築されているが、現在は、コロナ禍に配慮して買い物や外出、外食、行事への参加は自粛している。面会は、玄関に新設したパーテーションの窓越しに実施し、住民からの相談対応は継続している。コロナの感染状況を把握しながら、社会人ボランティアの受け入れ再開を検討中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	これまで認知症サポーター養成講座の開催、認知症見守りメイト、サマーボランティア、看護学生の実習受け入れ等行っていたが、現在新型コロナウイルス感染予防のため行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで運営推進会議にて利用者の生活状況やインシデントについて報告し協議テーマを設け幅広い意見をいただきホームの運営やサービスの向上に活かしていたが、現在新型コロナウイルス感染予防のため運営推進委員は参加せず事業所内で開催し議事録を配布している。	従来、会議は、家族や民生委員、自治会長等が参加して定期的に開催してきたが、コロナ禍に配慮して現在は一堂に会することは控え、利用者の状況や活動内容等を資料にして委員に届けて意見を頂き事業の改善を図っている。コロナ禍が落ち着きつつあるため、次回から公民館の会議室での会議再開を検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	これまで市の介護相談派遣事業の受け入れを行っていたが、現在新型コロナウイルス感染症予防のため行っていない。運営規定の改正や自己・外部評価の提出等、市との連携を図り協力関係を継続している。	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、運営やケアに係る相談、感染症予防に関連する協議等を行って指導や助言をもらうなど、市担当者とは密に連携して協力関係を築いている。市や市社協主催のリモート会議等にも出席してサービスの向上を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を2ヵ月に1回開催し、議事録を回覧、全体ミーティングでも報告し、職員の情報共有を図っている。また身体拘束廃止について年2回内部研修を行い職員が日常のケアを振り返ることで身体拘束廃止の理解と意識向上、実践に取り組んでいる。	身体拘束や虐待をしないケアの取り組みについては計画的に研修を実施して周知を図り、ケア検討会や毎日の申し送り時に振り返りや意見交換を行って拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束適正化を目的とした身体拘束廃止・虐待防止委員会も隔月毎に開催しており、日頃から見守りや寄り添い等の関わりの中で利用者の思いを汲み取って、尊厳や個性を大切に支援に努めている。不適切な言動が見られた時は注意し合うなど、日頃から改善に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を2ヵ月に1回開催し、議事録を回覧、全体ミーティングでも報告し職員の情報共有を図っている。また虐待防止について年2回内部研修を行い職員が日常のケアを振り返ることで虐待防止の理解と意識向上、実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している対象者はいないが全職員が内部研修により権利擁護とは利用者の尊厳を守るための重要な制度であるということを理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して重要事項説明書、その他契約の締結時、改正時には利用者、家族に分かりやすく説明し、理解、納得して頂けるように努めている。不安に思っていることや疑問に思ったことを尋ねやすいよう環境を作り理解、納得した上で契約を作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を計画作成担当者が兼任。利用者、家族が気軽に意見や要望を伝えられる環境を作っている。意見や要望が寄せられた時には解決窓口の取締役、管理者による委員会を開催し議事内容は第三者が閲覧できるようにしている。各階の家族が参加する運営推進会議は現在新型コロナウイルス感染予防のため行っていない。	利用者の思いを大切に、日頃の会話や表情、仕草等で理解に努め、家族からの意見や要望は面会や電話、Line、手紙、写真も添付した「あらた新聞」等で利用者の状況を伝えながら把握して改善に繋げている。現在はコロナ禍に配慮して、イベント等の家族参加は控えてもらっている。面会は窓付きのパーテーションを玄関に新設し、予約制にして過密を防ぐなど工夫して実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営側と職員側で定期的に面談を行い運営に関する職員の意見や提案を述べる機会を設けている。運営側、管理者は職員の意見や提案を十分に検討しソフト面、ハード面において良い運営ができるように反映している。	管理者及び職員は気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、ケア検討会、個人面談等で意見や要望を出し合い、協議して改善を図っている。ケアに関する助言やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。外部研修受講時の経費の助成制度等が整備されて職員のモチベーションアップになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業年数に応じた昇給制度や資格手当を設け職員の意識向上につながる条件を整えている。勤務の定時出勤、退社ができる環境や有給休暇も無理なく取得できる等職員が働きやすい環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修や内部研修を活用し、個々のスキルアップを図る環境作りを行っている。OJTを活用しながら2カ月に1度の内部研修を行い、働きながら知識や技術向上ができる取り組みを行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島県、市のグループホーム連絡協議会に加入しており、研修にはリモートで随時参加。同業者とのネットワークづくりを積極的に行っている。またより良いサービスの提供のためプライバシーに配慮しながら同業者間での情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定の段階において本人の生活歴や性質、利用にあたっての不安や要望等について家族へアセスメントシートの記入を依頼することで、入居後の環境変化にスムーズに馴染めるように必要な整備等行い準備している。また、家族と入居前よりこまめに連絡をとり良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の段階において、家族へ本人への支援等の希望を記す書類を用意し、家族の思いを引き出しながら本人との関係を考慮し、良好な関係づくりに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に本人、家族と面談し、現段階において必要とされている支援サービスが何か一緒に検討している。また、様々なサービスの情報を提供し、専門的な視点から必要とされる支援についてアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の中にある「ご利用者は人生の大先輩である」を念頭に置き日々の暮らしの中で長年培ってきた能力を発揮できる環境を作り、利用者を敬う心を忘れず、職員と共に生活できる関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は共に生活する中で利用者が表現できない不安や思いを感じ取り理解し家族に伝え利用者の望む暮らしを家族と一緒に検討している。家族から無理のない範囲で協力を得られるようアプローチを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開設時から家族だけでなく友人や知人にも気軽に来訪できるようオープンな環境を作っているが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため面会は制限している。	利用者各人の馴染みの情報を把握して、通常は近辺の散歩や買い物、通院、一時帰宅、外食、墓参等を家族の協力を得ながら意向に沿って支援しているが、現在はコロナ禍に配慮して、買い物や外食、外泊等は控えてもらい、家族とはパーテーション越しでの面会やタブレットでのLine、電話、手紙の取り次ぎ等に努めて関係を継続している。天候や体調に配慮しながら、ホームの屋上で日光浴を兼ねて散歩し、花火大会や周辺の街並み、桜島等の景色を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が明るい雰囲気と思いやりを持ち共に生活できるように、利用者間のコミュニケーションを見守っている。時に職員も間に入り、心地良い日々を過ごせるよう環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了する前に他施設や病院への移動を円滑に行えるように支援をしている。移動後の経過など、家族との連絡を絶やさず関係を保ち支援を行っている。グループケアについて全職員が理解し、家族の心情に寄り添う支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月ケア検討会を開催して一人ひとりの望む暮らし方を分析、検討し職員間で情報共有を行っている。日常生活の何気ない会話から本人の要望を探り、言葉にできない思いを読み取っていち早くサインに気がつけるよう心掛け、利用者本位の支援に繋がられるよう努めている。	利用者の日頃の会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、申し送りやケア検討会等で共有して、利用者主体の安全で生きがいのある暮らしを家族の意向も聞きながら取り組んでいる。利用者が希望する趣味（ぬり絵、チラシで箱作り、ドリル、かるた等）や食材の下処理、テーブル拭き等の取り組みを残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉等を添えて達成感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から本人のアセスメントシートを記入していただき、生活暦や馴染みのある暮らし、これまでのサービス利用経過の情報などを把握し、その人らしい暮らしの支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日々の過ごし方や身体状況を記録、把握し情報を共有することで職員全員が支援に繋がっている。変化がみられる時には、観察シートなどを利用し職員間で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心にチーム全体で介護計画を作り上げることを職員全員が理解している。担当者会議では、本人、家族が自由に意見が述べられる環境作りに努めている。新型コロナウイルス感染予防のため現在は電話対応等により、家族へ近況報告を行えるよう工夫している。	ケアプランには、利用者や家族の意向を丁寧に聞き取り、主治医の指示やモニタリング時の職員の意見等を基に、残存機能や習慣、趣味等にも配慮した介護計画を作成している。利用者の状況変化時には実態に沿った計画に変更し、利用者や家族の理解も得ながらケアに取り組んでおり、実施状況は申し送りや業務日報等で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の日々の生活の様子やサービス提供内容、健康状態を記録し職員全員で情報共有し把握しながら介護計画の見直しやケアの実践等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対し医療面では他科受診、往診などかかりつけや馴染みのある病院受診を支援している。出帳理容は新型コロナウイルス感染予防のため現在利用しておらず、外出での散髪も控えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや近隣の小学生、幼稚園児の訪問等があったが、現在は新型コロナウイルス感染予防のため地域との交流は控えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望する医療機関の情報を把握し、入居後も継続して利用できるよう支援を行っている。専門医を受診する際は適切な医療が受けられるよう本人、家族の希望を重視した支援に努めている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、定期的な通院や訪問診療、訪問マッサージが実施され、他科受診も家族と協力して実施している。協力医療機関との医療連携の体制を構築し、看護師が主となって日頃から衛生や健康管理を徹底しており、健康状態は家族にも密に報告することで利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師をホーム内に配置し、また協力医の看護師へホームでの情報や気づきを伝え相談することにより適切な受診や看護を受けられるなど、予防の視点での健康管理を行う事ができている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は病院関係者に情報提供を行い、また関係者と情報共有、相談を行うことにより早期退院を目指し、退院後の早期回復に情報を役立てている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に本人や家族へ重度化及び看取り方針について明確に説明し同意を得ている。本人や家族の不安がある時には主治医と面談を行い状態説明を受けることで本人、家族と情報共有ができる体制が整っている。</p>	<p>重度化や終末期に対する指針を整備し利用開始時に本人や家族に説明して理解を得ており、同意書で対応を共有している。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族の意向を十分に聞き取り、主治医や看護師と連携して可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、これまでも看取りを実施している。「コロナ禍での看取り支援」をテーマにした研修も計画している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生時のマニュアルを提示し全職員が把握している。AEDの取り扱いについては専門業者に内部研修を委託し、正しく使用できる実践力を身に付けているが現在は新型コロナウイルス感染予防のため実施を控えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>各階に非常災害対策マニュアルを掲示し全職員が把握している。毎月各階で火災及び地震を想定した日常防災訓練を行い利用者ごとに必要な支援方法を記録している。</p>	<p>年2回夜間想定も含む火災や地震を想定した防災訓練や、様々な発生パターンを想定して各階ごとに毎月自主防災訓練を実施しており、災害に関する講話や消火器等の取扱い等も研修している。日頃から避難経路の確認や報道された災害事例を基に意見交換するなど、災害対策に対する認識を共有し、民生委員や訪問マッサージ師等も組み入れた連絡網が整備されている。スプリンクラーや自動通報装置等が設置され、災害時の食料・飲料水、介護用品を消費期限も把握して備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、プライバシー保護に配慮、誇りを失わない生活を支援するサービスの提供に努めている。	理念に「利用者は人生の大先輩である」を掲げ、人格や誇りを損ねる事の無いように研修の実施やケアの振り返り、意見交換で認識を共有し、利用者の生活歴や習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に努めている。居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造になっており、衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛けは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を自由に表現し自己決定できるよう、利用者と職員の間信頼関係の構築に努め、支援に繋がっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活の流れはあるが利用者一人ひとりのペースを大事にその人らしい生活を支援している。会話の中から本人の希望を探り、希望に沿った支援を行えるよう職員間で情報共有している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の身だしなみは本人と職員で行っている。現在コロナウイルス感染予防のため出張理容サービスの利用を中止している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる献立を管理栄養士が作成し、利用者の好みや食べたいものを日常の会話の中から取り入れ、食事を楽しむことができるように支援している。コロナウイルス感染予防のため現在職員は別のテーブルで食事をしている。	食事は利用者の何よりの楽しみで、関心も高く要望も多いことから、好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限等に配慮したメニューを2人の管理栄養士が作成し、利用者も簡単な下処理やテーブル拭き等を楽しみながら一緒に調理している。季節の行事食や誕生日の希望食、父の日のつけ井、ハンバーガーやピザのランチ、寿司の出前、手作りのおやつ等、食事が楽しみとなるよう日々工夫しているが、コロナ禍に配慮して外食や家族との会食は自粛中である。各利用者の食事や水分の摂取状況も把握している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の必要栄養量に応じた献立作成を管理栄養士が行い、食事摂取量、水分摂取量の把握に努め一人ひとりの状態に合わせた支援により健康維持に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、案内、必要な部分は支援することで口腔内の清潔が保たれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し適切な時間に声かけや案内を行うよう心掛け、可能な限りトイレでの排泄ができるような支援を行っている。	各利用者の排泄パターンをデータ等から把握し、心身の状況や習慣にも配慮した声掛け等で可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状態に応じた介護用品や方法を介護計画に反映させて改善に努めており、介護用品の減少などの効果がみられている。便秘の予防に繊維の多い食材や乳製品、水分の摂取及び運動量等に配慮し、主治医にも相談しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を多く含む食材を献立に取り入れ、乳酸菌飲料の提供、十分な水分摂取など食事の面からの対策をとりながら、運動や腹部マッサージなど便秘予防の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日に体調をみながら希望する時間に合わせて入浴支援を行っている。本人が入りたくない時は清拭や足浴など無理のない支援を行っている。	基本週2回の入浴を支援しているが、必要に応じシャワー浴で清潔を保っている。順番や温度、時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等は柔軟に対応し個浴でゆっくり楽しんでもらっており、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、無理強いしないで時間の変更や声かけ等を工夫し、清拭や足湯の対応も行うなど、利用者自身の意欲を汲み取りながら保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせてナイトケアを行い寝具や室温調整に気を付けてゆっくり休むことができるよう支援している。その日の睡眠の状況を職員間で情報共有し、休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬をいつでも確認できるように薬剤情報を健康記録ファイルに綴っている。服薬時は本人へ手渡し、飲み込むまでを確認している。主治医、看護師、薬剤師と連携をとり状態変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞読み、漢字、計算、かるた、トランプなどのレクリエーションを実施したり、個々の好みに応じ嗜好品を提供し喜びのある生活に繋げている。生活暦を活かした役割を持ち、張り合いのある生活を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>現在コロナ禍のため不要不急の外出は控えているが、通常は本人の希望に沿って買い物や散歩、外食などの外出支援を家族や地域と協力しながら行っている。</p>	<p>従来、周辺の散歩や買い物、一時帰宅、墓参等を家族と協力して実施しているが、コロナ禍の為、買い物や一時帰宅、墓参等の外出は控えてもらっている。地域のイベントの殆どが中止され、ホームの行事も十分には実施できない状況であるが、屋上での日光浴や散歩、花火の見物、桜島や周辺の街並み等の眺めを楽しんだり、室内でかるた、トランプ等のゲームやビデオ鑑賞等、工夫して気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在はコロナ禍のため入居者の希望に応じて買い物代行を実施している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や友人へいつでも電話ができるように支援している。手紙やはがきを書く利用者からは職員が投函の依頼を受けいつでも気兼ねせず手紙を出せる環境を作っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、壁に花のポスターや貼り絵を展示し四季を感じながら居心地よく過ごせる環境作りを行っている。こまめに掃除を行い、不快な刺激が無い環境で過ごせるように努めている。</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や利便性に配慮してテーブルやソファ、テレビ、畳スペース等が設置されている。ホームはビルの2、3階部分に設置されており、窓や屋上からの周辺の街並みや桜島の望めを楽しんでいる。随所に活花や利用者の写真、作品等が飾られ、対面キッチンからは調理の音や臭いを感じられて家庭的で和やかな雰囲気となっている。手指消毒薬等も設置され、空調や清掃、整理整頓を徹底し、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は快適な環境の中で穏やかに過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを設置して複数人で歓談できるスペースを設けたり、一人になりたい時は自由に自室へ帰って本人のペースで過ごせるような環境作りを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある家具を置いたり使い慣れた食器や寝具を使うなど新しい環境で居心地よく過ごすことができるように工夫している。</p>	<p>居室はフローリングに腰高窓の構造で明るく、エアコン、ベッド、整理タンスが設置しており、利用者の意向に添って整理整頓を支援している。利用者が戸惑うことの無いように、入口には大きな文字の表札で判別しやすいように工夫している。利用者は自宅で愛用していたテレビや寝具、家族写真、遺影、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた色紙等も飾って、居心地良く過ごせる環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>トイレやお風呂は分かりやすく表示している。自分の部屋が分かるように入口には表札を掛けている。可能な限り自立した生活を送れるような環境づくりを工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない